

美濃陶磁歴史館だより



連続 うちんたあのお宝、なんやね？

コラム 第10回 安藤知山

デザインの力を信じた窯焼き

戦後から高度経済成長期にかけて、美濃窯業界に大きく貢献した人物、安藤知山をご存じでしょうか。

明治42(1909)年、下石町に生まれた知山は家業の製陶所を継ぎ、その傍ら、商工展や日展で入選する作家でもありました。地元の実業家からの信頼も厚く、美濃焼に関するさまざまな役職に推され応えてきた人物です。昭和23年に下石陶磁器工業協同組合の技術指導員に着任、25年には同組合の理事長となり、27年には小谷陶磁器研究所という後継者育成の場を自費で設立。昭和33年には、これまでの実績を評価した二宮市長が、土岐市陶磁器試験場の初代場長に知山を任命しました。この間、知山が常に意識していたのは、これからのやきものはデザインで勝負する時代になる」ということです。美濃焼の未来を見据えた知山の考えは人を引き付け、昭和22年以降、美濃

をはじめとする窯業地でデザイン指導を行っていた陶磁器デザイナー日根野作三とも共鳴します。日根野は、

機械化・量産化が進む窯業地の状況を目にしながら、手仕事を主とした「クラフトデザイン」による日常の器づくりの可能性を見出し、各地での製品開発に取り組みました。知山を紹介して組合や小谷陶磁器研究所、土岐市陶磁器試験場などでの指導の機会を得た日根野は、有能な人材を美濃に呼び寄せ、指導を充実させていきます。30年余り続いた美濃での指導は、公的機関、製陶所、作家など40力所を超え、日根野のクラフトの思想が美濃窯業界に波及していったことがうかがえます。日根野の思想を理解し、美濃窯業界と日根野を結び付けていった知山については、現在開催中の特別展「小山富士夫と美濃―昭和の窯業界のあゆみとともに―」の第2展示室で紹介しています。



陶製ドアノブ
小谷陶磁器研究所 1951-58年
土岐市陶磁器試験場所蔵



土岐市陶磁器試験場第1回試作品展
(1958年) 安藤知山(左)
土岐市陶磁器試験場提供

獅子牡丹文三段重
安藤知山
1930-40年代 商工展入選作品



特別展のご案内

小山富士夫と美濃 –昭和の窯業界のあゆみとともに–

● 令和4年2月13日まで開催中

担当学芸員による関連講座

- ①『小山富士夫と美濃』10月31日(日) 講師：春日美海
- ②『戦後の美濃窯業―日根野作三と安藤知山との関わりを軸に―』
11月28日(日) 講師：鍋内愛美

時間：13時30分～15時 会場：市文化プラザ3階視聴覚室
定員：各回35人(要予約・先着順)



美濃陶磁歴史館
(☎ ☎1245)